

AA日本ニューズレター

No.215

■第 15 回アジア・オセアニア・サービスミーティング (AOSM) 参加報告

「国境内の文化の壁を乗り越えメッセージを運ぶ」

常任理事会 WSM(前期)評議員 大迫

2023 年 7 月6日~9日、南太平洋のオーストラリアの北東に位置するフィジーの都市ナンディにて、第 15 回アジア・オセアニア・サービスミーティング(以下、略称 AOSM)が開催されワールドサービス・ミーティング(以下、略称 WSM)後期評議員のグルーディさんと共に参加しましたのでご報告いたします。メンバーと関係者の皆様にアジア・オセアニアにおける AA の国際協力活動の一端を知って頂けたら幸いです。

■AOSM 概要

AOSM は Asia Oceania Service Meeting の頭文字をとったもので、AA のワールドサービスにおいて世界を地理的に 4 つに分けた「ゾーン」という国際協力の枠組みの一つで、1995 年に日本で第 1 回 AOSM が開催されて以来、2 年に一度西暦の奇数年に開催されるアジア・オセアニア各国 AA の代表が集う AA の国際会議です。

AOSM の目的は、すべての AA の活動と同様で、住んでいる場所、人種、言語、宗教、文化など様々な背景に関わらず、今も苦しんでいる多くのアルコホーリク(≒アルコール依存症者)に AA の回復のメッセージを届けることです。そのために AOSM では共通する課題に対し、各国の経験やアイデアを分かち合い、よりよい方策を探ります。またゾーン内で AA が始まったばかりの国の AA に協力しその発展に寄与することも目的の一つです。

今回の AOSM のテーマは、「国境内の文 化の壁を乗り越えメッセージを運ぶ」 ("Carrying the Message and Overcoming Cultural Challenges within Borders")。参

加国は、フィジー、オーストラリア、ニュージーランド、ロシア、香港、シンガポール、MERCAA(メルカ)(中東諸国アラビア語圏 10 か国の集まり)、韓国、日本の計 9 ヵ国で、各国の代表である評議員 14 名が集いました。ほかにアメリカ・カナダのゼネラルサービス・オフィス(GSO)からはボブ所長と国際担当スタッフのレイシーさんの 2 名が参加してくれました。なお日本からは私たち 2 名の WSM 評議員のほかに、元 WSM評議員で AOSM 会計を務めた森田さん、通訳の

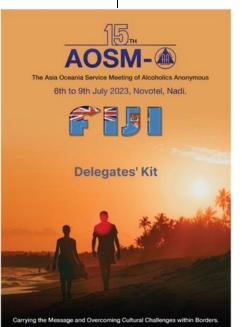
和田さん、評議員の同伴の家族含めオブザーバー3名の総勢7名が参加しました。

会場はナンディ市内にある Novotel というホテルで、4 日間の AOSM 期間中は、メインテーマや共通する様々な課題について、 プレゼンテーションやワークショップ、4 つの委員会など多くの充実 した分かち合いが行われました。私も日本の『カントリーハイライト』

と『ローカル言語による AA 出版物の作成ー 事例紹介』というテーマで原稿を用意することで何とか英語による計 15 分ほどのプレゼンテーションを行うことができました。(内容的には、日本の経験から、母語による出版物や母語のミーティングで AA メッセージを伝えることの重要性、および AA 日本オリジナルの出版物『ようこそ AA』と AA のコミックの紹介をしました)

会議中や休憩時間や食事時間など他国の WSM 評議員やメンバーとのコミュニケーションについては通訳和田さんのおかげで不自由はほとんど感じることなく過ごすことができました。またグルーディさんは過去日本の通訳時代も含め11回目のAOSM参加

であり過去の経緯や背景も教えてくれ大変ありがたかったです。なおグルーディさんは次回2025年シンガポールで開催されるAOSM議長に選出されました。私はWeb・出版委員会に所属し、ほかの委員と共に数年前にデータが消失した AOSMの新ホームページhttps://aosmaa.org/の再構築を次回のAOSM迄定期的なオンライン委員会を開き進めることになりました。



■フィジーのAAについて

現地のホスト委員メンバーは4名で、開催までの準備と空港への 出迎えや期間中の段取りをしてくれ、朝と夜にはホテルの会議室 で通常の AA ミーティングも開いてくれました。

また最終の日曜日の夕食パーティーではロボという地元料理(芋や鶏肉などを葉っぱに巻いて土に埋め3時間ほどそのうえで石を置いて薪を燃やして熱で蒸す)と地元のダンサーによるフィジーのダンスなどホスピタリティあふれるもてなしをしてくれました。



ここでフィジーの AA について少し述べます。フィジーは人口約92万人で300を超える島々から成り立っていますがAAメンバーは7月現在4つに島にいて計14名です。1990年代から海外からの駐在員のAAメンバーたちがオンラインミーティングを開始して以来、現在は週に2回の対面によるミーティングと5回のZoomミーティングが開催されており、そのうちの一つは男性ミーティングです。フィジーでは文化的、社会的な要因から男性の方がよりAA に参加しずらい雰囲気があるようです。またかつてイギリス植民地だったことからインド系の方も多く、言葉も公用語の英語のほかフィジー語、ヒンディー語や島による方言もあり言語や文化、信仰も多様です。

オーストラリアとニュージーランドの AA はスポンサー国として、フ ィジーの AA の発展を手助けしています。 今回の AOSM でもこの 2 か国がフィジーに財政的な支援をしました。2016年にはオーストラ リアは自国の全国コンベンションをフィジーで開催し、その中でフィ ジー保健省やWHOの協力も得て400名規模の『AA広報デー』も 開催し成功をおさめ、フィジー国内で AA の認知を高めるのに大き な役割を果たしました。2018年にはフィジーGSOも発足とホームペ ージも開設、またメンバーのローテーションによる 24 時間の電話ホ ットラインも同年開始しています。2019年には、やはりオーストラリ アの支援で香港で開催された AOSM にフィジーは初参加し他国か ら GSO やサービス機構や書籍の必要性、重要性を強く感じたとの こと。なお今回の AOSM の終了翌日の月曜の午前中にも、AOSM の参加者も協力してフィジーAA が主催で『専門家向けワークショッ プ』が関係者15名(保健省、医師、薬剤師、司法関係者、刑務官、 牧師など)を招いて開催されました。コーヒーやお菓子、昼にはラ ンチも用意してメンバーと専門家が隣り合うよう名形でいくつかある 円卓に座りモデルミーティングやAAの説明、Q&Aなどカジュアル

な雰囲気の中で AA を知ってもらうやり方は日本でも参考になるのではと感じました。

オーストラリア、ニュージーランドとのしっかりとした国と国とのスポンサーシップと、そしてメンバー同士のスポンサーシップや交流の中で、健全なサービス機構の土台も出来上がってきており、これから国境内外の周辺の島々にも徐々にメッセージが届き成長していくだろうと予感させられます。

お伝えしたいことはまだまだ沢山あるのですが紙面が尽きますので、ここまでといたします。

メンバーの皆様向けには来年 2 月の評議会での報告のほか 2024 年 1 月に 2 回ほどオンライ AOSM 報告会もグルーディさんと 企画しております。グループ発送物等にてご案内いたします。最後 に 2023 年もゼネラルサービス活動へのご理解と JSO への献金、そして国際協力献金へのご協力感謝いたします。2024 年もよろしくお願いいたします。



■関東甲信越圏ゼネラルサービスフォーラムを終えて

B 類常任理事 今井

2023年11月25、26日に関東甲信越圏ゼネラルサービスフォーラム(以降、GSF)が開催されました。今回の実行委員会は約80名となり昼夜を問わず打ち合わせを重ねました。当日は※300名弱のメンバーが参加し、盛況のうちに終了しました。

 $%: 会場: 180名 + \alpha$ 、オンライン90名、スカラーシップ: 9名

思い返せば2019年、仲間が参加した北米の地方圏サービス集会(地域や役割を越えたサービスの分かち合い)に惹きつける魅力を実感し、日本でも開けるよう第25回評議会(2020年2月)に提案、開催が決定し、一昨年は西日本圏、昨年は東日本圏、今回の関東甲信越圏で日本の地方圏を一回りしたことになります。

日本でのフォーラムは前半にJSOや常任理事会のプレゼンを組み込み、日頃からの感謝と共にゼネラルサービスへのご理解を求めます。後半はサービスの分かち合い、今回の主なテーマは、金銭と冷霊性について伝えているか、新しい仲間にサービスの魅力をどう伝えているか、遠隔地の新しい仲間にAAの魅力は伝わって

いるか、等々。全体を通してオリジナル性溢れるフォーラムに育ったように思います。ありがとうございました。

※過去の地方圏ゼネラルサービスフォーラム
2019/11/2 プレ企画(ニューズレター199号掲載)、2021/12/18
,19 西日本圏(207号)、2022/10/29,30 東日本圏(211号)。
PRSAASA(Pacific Region Alcoholics Anonymous Service
Assembly)「AA太平洋地方サービス集会」(197, 198号)

あの時にみんなが熱く議論していたのはこの事だったのか 西関東甲信地域 前期評議員 家近

私は2014年にAAに繋がり、2017年から代議員として地域集会に参加しました。当時は分割前で200名以上が集まる大きな集会になっていて、参加したものの一言もしゃべらず(隣の人と雑談だけして)長野に帰ったことを思い出します。

丁度その頃関東甲信越地域を分割することについて熱い議 論が巻き起こっていて、その中で「分割後のサービスが維持でき なければ意味がない」とおっしゃっていた方がいました。

当時はサービスという言葉が良くわからず(JSOとCOの区別も理解できて無く)「分割の意見が出てるんだから分ければいいんじゃない?」くらいの浅はかな考えでした。

その頃を思い出しながら今回の GSF に参加して、「そうか、あの時にみんなが熱く議論していたのはこの事だったのか」と今更ながらに胸に響くものがありました。

ゼネラルサービスとは何かを考えたとき、私は合わせて「私の 責任」という言葉を思います。

それは決して堅苦しいものではなく、「苦しんでいる仲間の為にできる事」であり、動ける人は手を動かす、動くのが難しい人は献金で支える、という事を今回の GSF 強く思いました。そして私が今回の GSF に参加して改めて思う事は、「過去にゼネラルサービスを途切れさせなかった仲間の努力が有って、今私がここにいる」という強い気持ちであり、仲間への感謝です。

今回 GSF に準備委員会の段階から参加してみて、全国の仲間を巻き込んだ委員会を運営していく理事の方の大変なご苦労を目の当たりにし、この情熱はいったいどこから湧いてくるのか、と畏敬の念を抱きました。本当にお疲れ様でした。

さらに今回のハイブリット開催という方式は、AAの仲間たちの 距離を縮める有効なツールであると感じますし、実際のやり方を 学ばせて頂く良い機会にもなりました。今回 Online でしか話せな かった仲間とも、次はリアルでお会いできればと思います。

GSFとは、サービスの三角形のボトムで日々AAメンバーの為にサービスを行っている仲間と分かち合いができる場だと感じま

した。そしてそのサービスが強制されたものではなく、皆が分かち合いと認め合いで互いに尊敬の念を持ち、終了時に「ああ参加して良かった」という気持ちを持てる場だと理解することができました。

今回参加した仲間で、サービスをやってみたいという方が何人 も出てきてくれることを願います。

最後に、今回実行委員会に参加して、多くの仲間から言葉では表せないほどの力を頂きました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

常任理事および実行委員会のメンバー全員の「熱い思い」と「行動力」の賜物

西関東甲信地域 後期評議員代理 久保

私は 2021 年 1 月から評議員を務め、本来なら 2022 年 12 月末 で終わるはずでしたが、2023 年度の後期評議員がいないため、 2023 年度後期評議員代理をやることになりました。

2年間の評議員の経験があるので楽にあと1年間は過ごせるかなと思っていた矢先、ハイヤーパワー(私は不思議な力と呼んでいます)が私に贈り物をしてくれました。それは、2023年2月に常任理事から「関東甲信越圏(東関越地域と西関東甲信地域)でGSF開催のお願い」が打診されました。このお願いは、議題提案として地域委員会に提出し、審議・採決した結果、西関東甲信地域がホスト地域として立候補することに決定しました。

その後、東関越地域でも同様手順を踏みましたが、西関東甲信地域の決定事項を尊重し、ホスト地域として立候補することを辞退することが決定しました。この結果、西関東甲信地域がホスト地域になることが決定しました。

しかし、正式には地域集会で承認がもらえないと実行委員会を立ち上げることはできません。このため、準備委員会を開催し、実行委員会が立ち上がるまでにできる限りの検討をやっていくことになりました。

準備委員会では、200人以上収容できる会場の確保が最優先項目となり、全員で会場を探した結果、運良く「八王子市生涯学習センター クリエイトホール」が抽選で当たりました。

2023年7月の地域集会で西関東甲信地域がホスト地域になることが正式に承認され、実行委員を大募集して実行委員会を立ち上げました。そして、実行委員会内の各チーム(広報、プログラム等)で検討を加速していきました。

私は財務およびサポートチーム(後に影の軍団と私は勝手に呼びました)のリーダーとなり、予算管理や申込・入金管理および問合せを担当しました。参加申込方法は東日本圏GSFの時の問題点を改善するため、Google フォームを採用し、また入金方法は振

込用紙によるものと JSO で利用しているスクエア方式を採用しました。参加申込・入金が始まると、担当メンバー(影の軍団)の力を結集して対応しました。この結果、申込・入金管理を問題なく行うことができました。担当メンバー(影の軍団)に感謝です。最終的に参加申込者は会場およびオンライン合わせて約300名あり、サービスに関心のあるメンバーが多いのに安心しました。

そして、GSF当日を迎え、色々なプログラムで活発に質疑応答があり、大好評の内に関東甲信越圏GSFを終了することができました。この結果は、常任理事および実行委員会のメンバー全員の「熱い思い」と「行動力」の賜物と思います。

最後に、私は議題提案~GSF終了までの約10ヶ月の期間、関東甲信越圏GSFに携わり、多くのメンバーと分かち合うことができ、また力を貰えたことに感謝します。

■50周年記念誌編纂委員会より

B 類常任理事 郷

1975 年に東京蒲田で最初のミーティングか開催されて以来、日本の AA は 2025 年で 50 周年を迎えることになります。2020 年 2 月の第 25 回評議会で 50 周年記念集会が旧関東甲信越地域にて開催される事が決定し、2022 年 2 月の第 27 回評議会にて 50 周年記念集会と時期を合わせて記念誌を発行することが常任理事会から報告され、決定されました。その後 2023 年 6 月に編纂委員会を立ち上げ、現在活動を行っております。

編集方針としては、2005年に発刊されたAA日本30周年記念誌をベースとし、アーカイブ的な価値が高いものとすることに致しました。また、多くの仲間が編集作業に加わる事も目指し、北海道・東北・旧関東甲信越・中部北陸・関西・中四国・九州沖縄の各地域に編纂委員を選出しました。編纂委員の方々には、地域のメンバーでチームを作って戴き、協力して作業を進めてもらっております。編纂委員を通して各地域のセントラルオフィスにも原稿執筆・写真撮影等のご協力をお願いしております。

過去の経験を生かすため、30周年記念誌の編纂に関わったメンバーにもアドバイザーとして編纂委員会に参加していただいております。そして全体の進捗を管理するチームも編成しております。

この 10 年間のトピックとして、新型コロナウイルス感染症の大流 行がありました。2020 年初頭から急速に罹患者が増え、日本全国 の対面ミーティングが閉鎖されていきました。その影響で、2020 年春に関西地域で開催が予定されていた AA 日本 45 周年記念集会が中止となり、各地域のラウンドアップも開催出来ない状況になりました。

その一方でオンラインミーティングが急速に広まり、今までミーティング会場が近くになかった地方の仲間がミーティングに参加する機会を得やすくなったこともありました。

2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行されたことに伴い、多くの対面ミーティングやイベントが再開されています。

旧関東甲信越地域の分割についても記事を掲載する事に致しました。日本全国の54%のメンバーが在住する巨大な地域の分割には、発案から約10年の時間がかかりました。

また、日本の AA の発展と普及に大きなご尽力を戴いた医療・行 政関係者の友人の方々からのご寄稿も、できるだけ多くのページ を割いて掲載するよう計画しております。

後半部分の年表や評議会資料などのデータの整理につきましては、ボランティアメンバーに多大なご尽力をいただいております。 評議会事務局や JSO スタッフ、全体サービス経験者の方々にも多大なご協力をいただいております。

この記念誌が発刊される事により、日本の AA の半世紀にわたる 歩みが皆様の話題となり、日本の AA が築き上げてきた伝統が再 認識され、揺るぎない目的である「今苦しんでいるアルコホーリクに メッセージを運ぶこと」が継承され、発展していくことを願っておりま す。そして次の半世紀に受け継がれていくことを望みます。

AA日本周年記念誌の一覧

※白黒コピーを 500 円/冊+送料で頒布しています。AAJSO AA日本20周年記念誌

「いくたびもの出会いを重ねて AA 日本20年の歩み」(199 5年3月24日発行・A4サイズ・133頁)

AA日本30周年記念誌

「今、そして未来へ」(2005年9月2日発行・A4サイズ・143頁)

AA日本40周年記念誌

「まだ出会っていない仲間たちへ Help others」(2015年2月 20日発行・A5サイズ・127頁)

編集:ニューズレター編集委員会・発行:NPO法人AA日本ゼネラルサービス

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419 http://www.aajapan.org jso-1@fol.hi-ho.ne.jp (月〜金)10:00〜18:00 (土・日・祝) 休